

# アカイカ 北太平洋

## Neon Flying Squid, *Ommastrephes bartramii*

### 管理・関係機関

北太平洋の海洋科学に関する機関(PICES)

### 最近一年間の動き

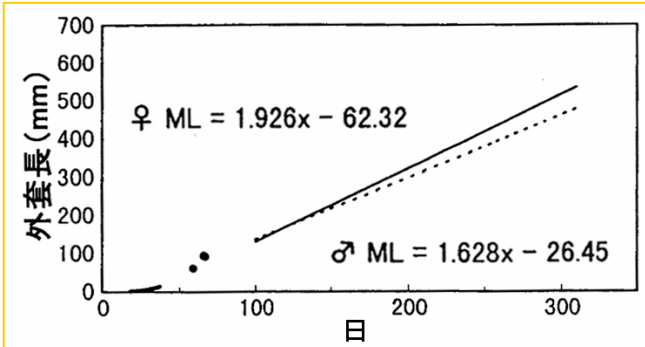
2006 年は、沖合に分布する秋生まれ群の資源に顕著な回復傾向がみられた。日本近海の資源については、それを獲る漁業自体が縮小しているため、漁獲量は少ない。特に、主力の中型船は高騰しているスルメイカに狙いを絞っているため、漁獲量が増えない。

### 生物学的特性

- 寿命: 1 歳
- 成熟開始年齢: 約 10 ヶ月
- 産卵期・産卵場: 秋～春、南西諸島～小笠原諸島、ハワイ諸島
- 索餌期・索餌場: 春～冬、亜寒帯境界～移行領域
- 食性: 橈脚類、魚類(ハダカイワシ類中心)、頭足類、甲殻類
- 捕食者: メカジキなど

### 漁業の特徴

我が国では 170°E 以西を釣り漁場、以東を流し網漁場とする規制を 1979 年から実施している。釣り漁業は縮小したが、流し網漁業は 1980 年代には重要となり、韓国と台湾も参入した。しかし、公海流し網漁業は混獲を主因とする国連決議により 1992 年末をもって停止となった。その後、日本近海で釣り漁業が復活し、170°E 以東にも出漁するようになった。最近では、中国や台湾の漁船も日本近海で操業している。



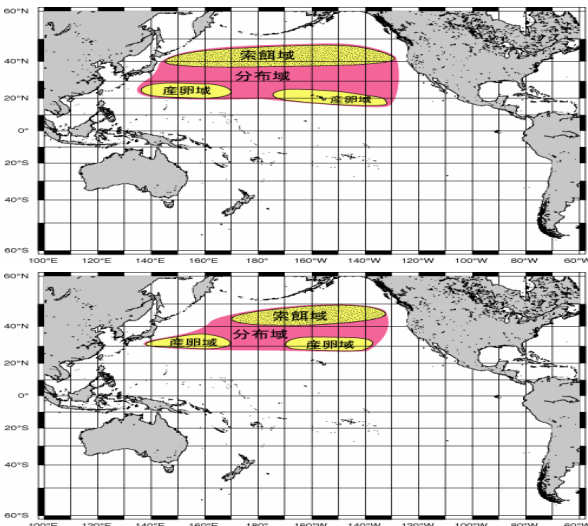
アカイカの成長曲線 (Yatsu 2000 より)

### 利用・用途

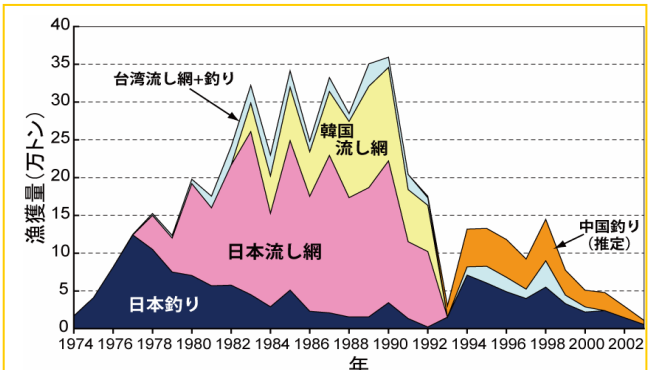
冷凍ロールイカ、総菜

### 漁獲の動向

かつては流し網漁業により、各国の総計で 20～35 万トンが毎年漁獲されていた。1994 年以降は釣り漁業により 10 万トン以上が漁獲され、そのうち約 1～2 万トンが 170°E 以東の旧流し網漁場で漁獲されている。最近では、中国や台湾の釣り漁船が我が国の 200 海里内外で操業しており、中国船の隻数は数百隻と言われ、漁獲量は少なくとも我が国に匹敵すると推定される。



アカイカ秋生まれ群(上)と冬春生まれ群(下)の分布



北太平洋アカイカ国別漁獲量

中国の漁獲量は 1994 年以降我が国と同程度と仮定

### 資源状態

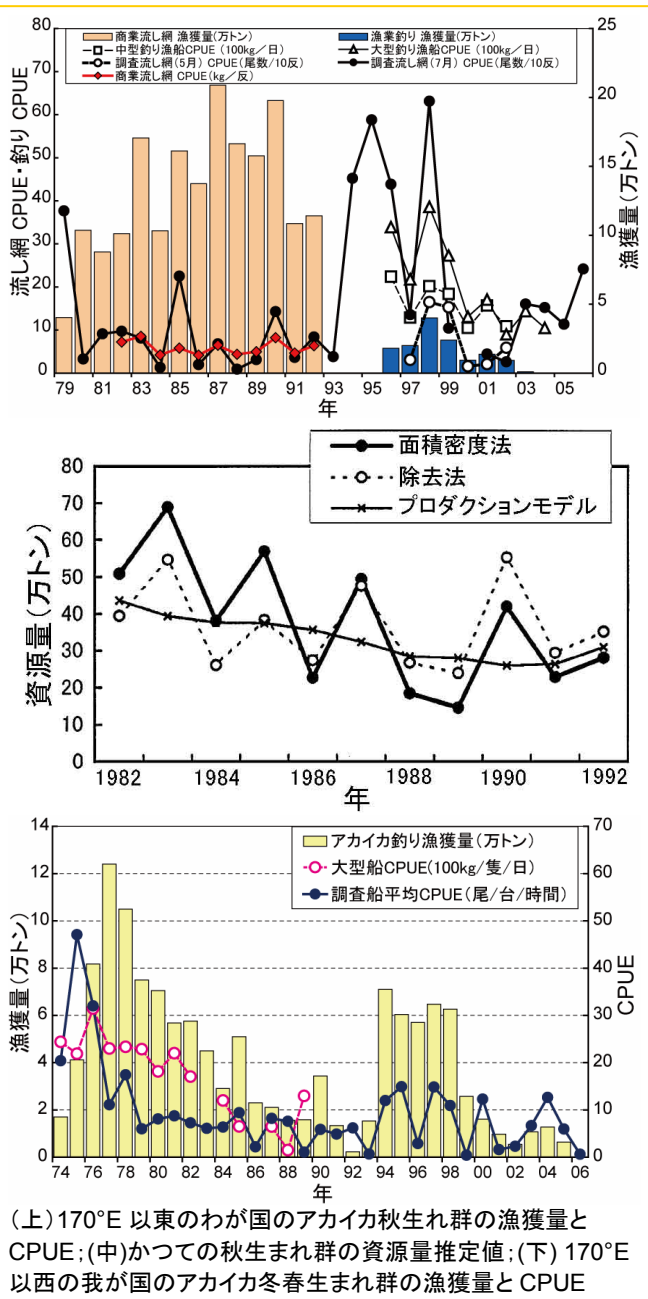
170°E 以東の秋生まれ群については、旧流し網漁場(170°E~145°W)の盛漁期(7月)の資源量を商業流し網と調査流し網データを用いて3つの方法で推定した。流し網時代の資源量は、面積密度法では38万トン、除去法では37万トン、非平衡プロダクションモデルでは33万トンと推定され、いずれの手法でも非常に似た資源量推定値が得られ、信頼性は高いと考えられる。1999~2002年は、レジームシフトにより資源が非常に低水準になったが、その後回復傾向にある。170°E 以西の冬春生まれ群では、1979年の釣り漁業データに基づく除去法から14万トンと推定されたが、継続的な加入と移出を考慮すると過小推定であろう。

### 管理方策

170°E 以東の秋生まれ群について、プロダクションモデル解析によると商業流し網による漁獲量(10~20万トン)はMSYレベルであり、また漁獲せずに残した親イカ量の割合は、管理目標値40%にほぼ相当する。従って、当面の妥当な漁獲量目標は、MSYの約16万トンである。170°E 以西の冬春生まれ群については、10万トン以上の漁獲量を上げた1970年代後半から1990年代初めまで、漁獲量、調査CPUEとも低下している。従って、10万トン以上の漁獲量は過大である可能性がある。なお、調査CPUEは1993年以降上昇に転じ、1998年までは高水準を維持していたが、1999年に再び急降下し、その後は変動が大きい。

### 資源評価まとめ

- 非平衡プロダクションモデル、面積密度法および除去法により資源評価
- 資源横ばい



### 資源管理方策まとめ

- 170°E 以東の秋生まれ群の妥当な漁獲量目標は、MSYの約16万トン程度である
- 170°E 以西の冬春生まれ群については、10万トン以上の漁獲は過剰である可能性がある

### アカイカ(北太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量(最近5年)	1.1~7.7万トン 平均4.5万トン
我が国の漁獲量(最近5年)	0.5~3.3万トン 平均2.0万トン